阿下喜小学校の子どもたちは掃除が上手なようである。掃除道具の後片付けも上手。校舎は古いがだからと言って汚いわけではない。古いと汚いは違う▼掃除は、たてわり班で行っている。6年生のお兄さんお姉さんがリーダーとなって、下級生に掃除の仕方を教えながらてきぱきと動かしていく。この日常の繰り返し、子どもたちの日々は日常が学校の環境美化を支えている▼掃除の時間の呼び名を「美化労作」と呼ぶ学校があることを先輩に教えていただいた。掃除はやらされるものではなく、自ら率先してやるものだそうだ。「労作」とは、何事も自らの意志で積極的に取り組むこと」だそうだ▼どこかで聞いた言葉だ。今年の6年生の学級だよりの題名は「率先」だった。毎年担任は思い思いに学級だよりの題名を考える。その思いが題名に込められている「うれしい！たのしい！だいすき！」「るうつ」「風」「パズル」「ぼちぼちいこか」担任の思いに加えてなんとなく人となりが見える。あったかい▼掃除が上手な子どもたちは物も大切に使う。校舎も丁寧に使う。今年度から掃除は週に3回しかないが、今のところ弊害はない▼廊下の雑巾の当番になった1年生の男の子が、渡された雑巾を見て「わっ、きったな～」なるほどかなり黒い。洗って落ちるレベルではなさそう。この雑巾は替えた方がよい。そう判断できる子を育てるのも教育であるが・・・。